

平成27年1月30日(金)

老球の細道109号

講演会「夢を見て、夢を追いかけ、夢を食う」

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

1月26日(月)会津若松市「ワシントンホテル」で全会津電気工事協同組合主催の講演会があった。演題は「人を育てる」というテーマで、サブテーマが「夢を見て、夢を追いかけ、夢を食う」。講師は元古川商業高校女子バレーボール部監督国分秀男氏。知人からこの講演会の話聞いて躊躇なく参加することを決めた。

講師の国分先生は現在東北福祉大学の特任教授をしているが、10年前まで知る人ぞ知るバレーボールの名門古川商業で監督を務め、インターハイ、国体、春高バレーを含めて全国大会優勝12回を達成した名監督中の名監督である。

バレーボールとバスケットボールは違うスポーツであるが、異業種の話には、まだまだ開発されない自分の可能性を開くためのヒントがたくさん隠されている。だから電機工事業界の方々も国分氏を講師に選んだのだろう。バレーボールでの「人を育てる」経験を社員や従業員を育てる、顧客を増やす方法としてアレンジさせながら話をしてきた。

さすがに話の内容、話術も超一流で、あっという間に時間が過ぎ去ってしまった。忘れないように印象に残ったことをまとめてみた。

国分流の人を育てるポイントには三つの大切なことがあるという。

①指示をするときは具体的に一つか二つ話す。人間の記憶力を考えると、そのくらいが妥当である。もしそれ以上話す必要がある場合は書かせるか、プリントにして渡す。そしてやり遂げた時は必ずほめる。

②目に訴える指導を多くする。現代人はビジュアル世代。視覚に訴えて目標をより鮮明にイメージさせる。30数年前、初の全国制覇を成し遂げた宮崎国体では、体育館に飛行機と宮崎の観光名所のポスターを張り付けて選手のモチベーションアップに役立てた。

③話し上手から聞き上手に。指導者が指示して動くだけの選手だけでは全国大会ベスト8止まり。優勝するには選手の主体性、選手同士で解決するチームワークが必要ということで、それ以後選手に質問を投げかける指導方法に大転換した。

他人(ひと)を育てるだけでは片手落ち。もっと大切なことがある。それは「自分」という人を育てなければならないという。自分を育てるにも三つの方法がある。

(1)一流の人の話を聞く。そしてできることを実行する。成功の反対は失敗ではない、成功の反対は何もしないことだ。

(2)本を読む。そして学んだことを実行する。言葉は意識を変え、意識は行動を変え、行動は結果を変えると国分語録。

(3)新聞を読み、ニュースを見る。そして社会の変化を知る。強いものが生き残ったきたのではない。変化に対応できたものが生き残ったと進化論のダーウインの話が出る。

他人を育て自分を育てることは車の両輪の関係だと国分氏は言う。左右タイヤの大きさが異なると同じところをを廻ってばかりで前に進まない。「二つの人」が車の両輪となって成長した時、人は育ち、組織は大きく発展するのだ。

最後に、色々な分野で成功をおさめた人には共通点がある。①才能よりも努力を重んじること②常に前向きに考え行動する③感謝の心が強い。心を動かされた至福の時間だった。